

事業計画書(実績書)

令和8年3月19日

団体名 京 都 産 業 大 学

事業の目的 (何のために行う事業なのかなど、事業の趣旨や目的を記入してください。)	【寺崎ゼミ】 学生目線で綾部市の魅力を伝えるPR動画を作成・投稿し、視聴解析を行うことで本市における効果的なPR方法を提案する。また、子供を対象とした地域食堂で食育を行うことで郷土愛を育み、定着促進につなげることを目的とする。 【松本ゼミ】 綾部市域の調査および地域住民や団体等との交流を通じて認識ないし把握した地域課題について、経営学を学ぶ学生の視点ないし観点を以て、これを可視化するとともに、地域の諸資源を活用した新たな結びつけによる解決策・活性化策を提示することを目的とする。 【滋野ゼミ】 学生が地域の事業に当事者として参加し、そこから地域課題を発見し、その課題解決に挑む。複数の活動に回を重ねて学生が参加し、綾部の「関係人口」となることで、多様な世代、属性を持った人たちが協働で地域づくりに取り組む機運を作り出すことを目的とする。
事業の名称	京都産業大学むすびわざプロジェクトinあやべ
事業費 (市補助金)	1,213,880円 (352,098円)
補助金の使途 (団体活動のどんな事業経費に補助金が充当されるか記入してください。)	当該事業の実施に係る移動経費、消耗品費、印刷経費など
事業実施期日	令和7年8月4日 ～ 令和8年3月19日
事業実施場所	綾部市(志賀郷地区、西八田地区、豊里地区、綾部地区等)、本学 他
事業の概要 (事業の実施方法、内容について記入してください。)	【寺崎ゼミ】 (1) 学生主体で地域食堂を開催し、京都府綾部市の食材(米粉、さつまいも、味噌)を使用した調理を行い、地域住民に提供するとともに他地域と比べた食材の特徴を知ってもらうことなどで食育や郷土愛の醸成を推進し、定着促進に繋げた。その後、食材の魅力を動画に編集してYouTubeに投稿す

ることで地域外にPRした。

(2) 学生自らが京都府綾部市の地域文化や固有の自然資源を取材、体験し、若者・よそ者視点による魅力を発見し、その魅力を動画に編集してYouTubeやTikTok、Instagram、Xに投稿することで地域外にPRし、視聴解析を行い、効果や課題について分析した。

【松本ゼミ】

綾部市役所（企画政策課・農政課・図書館）や市内の主要企業（グンゼ株式会社綾部本社・グンゼ博物館・記念館および日東精工株式会社）へのヒアリング・調査をおこない、地域商工業・農林業の発展過程や現状と課題、歴史・文化の継承状況、諸振興策の現況と今後の取り組みについて学んだ。

これらからの知見とともに、各種文献・資料などの分析をふまえて、グンゼ創設者の波多野鶴吉や同社の歴代経営者、日東精工創設者の四方重吉らをはじめとする地域の先人たちの事績を含む地域資源の利活用をベースとする活性化計画の作成および情報発信の改善や新たな方向性を提起した。

【滋野ゼミ】

(1) 「小さな谷の小さな暮らし（ちいたに）」参画

志賀郷ゴキゲン化計画が主催するプロジェクト「小さな谷の小さな暮らし」に参画し、地域の状況を把握するとともに、主催者や参加者と意見交換をする中で課題を発見し、同プロジェクトの次の展開に関する提案を行った。

(2) 「綾部こども探偵」の企画・実施

3年前にゼミ生が企画実施した、学生が地元小学生とともに地域を回り、子どもたちのサポートをする中で、地域発見や地元愛の醸成を促すとともに、学生の地域との交流や関係構築を目的とした事業である。学生が企画、事業実施を行う中で、子どもたちとの交流や地元理解を促すことができた。

(3) 水源の里集落調査と交流

水源の里集落の調査を通して、学生の地域理解並びに地域住民との交流を促した。

(4) 南西町商店街との協働事業

学生が商店街の店主等と意見交換を行うとともに、商店街を歩き、加盟店の店主らと意見交換を行った。次年度以降の本格的な事業展開に向けての情報収集ができた。

補助金の効果(成果) (計画書では期待できる効果を、実績書では得られた成果を記入してください。)	【寺崎ゼミ】 ・綾部市の関係人口の増加 ・「若者・よそ者」視点による食材や観光資源の魅力の再発見を通じた地域住民の郷土愛の向上 ・「若者・よそ者」視点による取り組みにおける食材の拡販、交流人口の拡大 ・地域課題に対する参加学生の課題解決力、提案力の向上 【松本ゼミ】 綾部市役所・図書館およびグンゼや日東精工へのヒアリング・調査をおこない、地域産業の現状と課題、歴史・文化の継承状況、各振興策の現況と今後の方向性について学ぶことができた。これらからの知見とともに、主に同図書館に所蔵されている多くの文献・資料等の講読・分析をふまえて、「綾部のベッドタウン化」や「綾部の強みである職住近接のPR推進」など、地域特性の再評価や地域資源の利活用を基軸とする活性化プランを作成し、新たな取り組みや情報発信の広範化・高度化を提言することができた。これを通じて、地域課題に対する参加学生の課題解決力、提案力が向上した。 【滋野ゼミ】 ・学生が定期的に地域に関わることによる子どもから高齢者までの多世代交流ができた。 ・学生が地域に通い、事業に参画、あるいは自ら企画実施することを通じて「綾部の関係人口としての学生」という位置づけを明確にすることができた。 ・学生が地域について深く学ぶことによる地域課題の把握と課題解決の提案をすることができた。
---	---

様式第4号(第3条、第7条及び第8条関係)

収支予算書(計算書)

令和8年3月19日

団体名 京 都 産 業 大 学

(単位 円)

収 入 の 部	区 分	予算額	収入済額	明 細
	綾部市補助金	352,098	352,098	
	京都府補助金	861,000	861,000	
	大学負担金	782	782	
	合 計	1,213,880	1,213,880	
支 出 の 部	区 分	予算額	支出済額	明 細
	移動経費	671,020	671,020	交通費・宿泊費等 ※内89,440円 綾部市補助金充 当
	使用料および賃借料	134,350	134,350	会場使用料 ※内19,500円 綾部市補助金充 当
	諸経費	408,510	408,510	成果物冊子等印刷代、食材費、 消耗品費、書籍代、体験料、 学生保険料等 ※内243,158円 綾部市補助金 充当
	その他	0	0	
	人件費	0	0	
差	合 計	1,213,880	1,213,880	
	引	0	0	